



Title	宮崎方言の「チャ」と「ト」
Author(s)	村田, 真美
Citation	阪大日本語研究. 2003, 15, p. 109-129
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/10238
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

宮崎方言の「チャ」と「ト」

Cha and To in the Miyazaki Dialect

村田 真美

MURATA Mami

キーワード：スコープ、対事的ムード、対人的ムード、「のだ」「チャ、ト」

【要旨】

宮崎方言の「チャ」「ト」は年齢差、性差などの属性を問わず、幅広く使用されているが、これらの詳しい研究はまだなされていない。そこで本論文では、宮崎方言の「チャ」「ト」をとり上げ、その意味・機能を共通語の「のだ」と対比させながら記述することを試みた。まず、宮崎方言の「チャ」は「のだ」に、「ト」は文末に生起する狭義準体助詞の「の」に対応することを述べ、「チャ」は平叙文専用の形式であり、「ト」は平叙文と（YES-NO・疑問詞）疑問文中で使用されることを示した。そして「のだ」の機能のうち、「チャ」は否定文のスコープ機能と対事的ムードの機能を持つこと、「ト」は肯定文のスコープ機能と対人的ムードの機能を持つことを明らかにした。

0. はじめに

宮崎方言には次のように使用される「チャ」「ト」がある。

(1) あれが大阪大学ヤッチャ。 (作例)

(2) 私、東京に行ったことないト。 (作例)

「チャ」「ト」は共通語の「のだ」¹⁾と置き換えが可能である。つまり話し手は「チャ」「ト」に前接する部分をすでに成立しているものとして、それを提示している。この宮崎方言の「チャ」「ト」は年齢差、性差などの属性を問わず、幅広く使用されているが、先行研究には、これらについて詳細に記述してあるものは見当たらない。

本論文では、宮崎方言の「チャ」「ト」をとり上げ、その意味・機能の分析を試みる。以下、1節で「のだ」と「チャ」「ト」の対応関係についてまとめ、2節で「チャ」「ト」の共起関係について整理する。その後、3節で本論文で参考にする研究についてまとめ、4節で「のだ」の機能と対比することで、共通点・相違点を挙げながら「チャ」「ト」の分

析を行う。そして5節で「チャ」に文末詞が後接した場合について分析し、最後に6節で「チャ」「ト」の文中での位置についてまとめる。

分析データは筆者の内省を中心とするが、適宜、宮崎市および宮崎市に隣接する市町村生え抜き話者の談話資料²⁾からのものも用いる³⁾。筆者は1979年宮崎市生まれ。2歳から18歳まで宮崎市に北接する佐土原町で過ごし、1998年春から大阪府に在住している。宮崎県内における「チャ」「ト」の地域差は今のところまだわからない。このため、本論文は筆者の内省がきく宮崎市周辺の「チャ」「ト」についての記述を行う。例文については、「チャ」「ト」に関わる方言的な要素のみ片仮名で示し、それ以外は基本的に共通語で表している。従って自然談話としては不自然な部分もあるが、読み易さを考慮して共通語に統一する。また、イントネーションについては、下降調については特に記さず、上昇調のみ「↑」で記す。

1. 「のだ」と「チャ」「ト」

ここで、「のだ」と「チャ」「ト」の関係について整理したい。

まず、佐治(1969; 1972)は準体助詞の「の」を(3)~(5)のように三つに分けている。

(3) a: 君の辞書はどこにあるの?

b: 私のは机の上にあります。【格助詞(下の体言の省略)】

この「の」は格助詞であり、その後続く名詞(この例では「辞書」)が言わなくてもわかるため、省略されたものである。

(4) 私が買ったのは辞書です。【準代名助詞】

これは先行する名詞を受けるか、あるいは後置されるべき名詞(この例では「辞書」)に先行して代名詞のような働きをするものである。

(5) 私が辞書を買ったのを知っていますか。【狭義準体助詞】

この「の」は具体的な意味のない、形だけの体言として、前の文を受け止める働きをしている。

そして佐治(1972)は狭義準体助詞の「の」に「だ」の後接したものが、「のだ」だとしている。つまり、文末に生起する狭義準体助詞の「の」は「のだ」の変異体であると言える。

(6) 辞書を買った {の / のだ}。

宮崎方言の「ト」は文末専用の形式であり、「のだ」の変異体として文末に生起した狭義準体助詞の「の」と置き換えが可能である⁴⁾。

- (7) 私 {の/*ト} は机の上にあります。【格助詞（下の体言の省略）】
 (8) 私が買った {の/*ト} は辞書です。【準代名助詞】
 (9) 私が辞書を買った {の/*ト} を知っていますか。【狭義準体助詞（文中）】
 (10) 辞書を買った {の/ト}。【狭義準体助詞（文末）】

共通語の場合、「の」に「だ」の後接したものが「のだ」なのであるが、宮崎方言には共通語の「だ」に相当する断定辞「ジャ」がある。この「ジャ」が「ト」に後接し、「トジャ」となったものが「チャ」に変化したのではないかと思われる。つまり、宮崎方言の「チャ」と「ト」の関係は、共通語における「のだ」と「の」の関係とほぼ同じである。

2. 共起関係

2. 1. 他の要素との共起関係

「チャ」「ト」は例えば、次のような文末詞と共起して使われる。

- (11) 太郎、来月結婚するッチャ+ {ワ/ジ/ガ}。 (作例)
 (12) この前、福岡に行ったト+ヨ。 (作例)

ここで、「ワ」「ジ」「ガ」「ヨ」は発話・伝達のモダリティ⁵⁾を表すものである。なお、「ワ」「ジ」「ガ」の後接した「チャ」については5節で詳しくとり上げることとし、4節までは「チャ」単独で生起するもののみを扱う。また、「ト」に後接できる「ヨ」は共通語の終助詞「よ」と同じものであると考えられる。「ヨ」は「ト」の生起可能な文中において常に「ト」に後接可能であると思われるが、本稿の例文中では「ト」のみ示し、「トヨ」の形では示していない。

「チャ」「ト」は用言には後接できるが、体言に後接する場合は必ず「ヤ」が前接する。ここで「体言」とは、名詞に加え、いわゆる形容動詞の語幹を含むものとする。

- (13) 今日、午後から雨が降る {ッチャ/ト}。 (作例)
 (14) 今日、午後から雨ヤ {ッチャ/ト}。 (作例)

共通語には「のです」「んです」等の丁寧体があるが、「チャ」「ト」は丁寧体と共起することがない。また、共通語には女性の話しことばに特有の「ですの」「ますの」という表現があり、これは「のだ」が終助詞化したものだと考えられているが、「チャ」「ト」にこのような用法はない。

- (15) 私が辞書を買った {の/*ト} です。 (作例)
 (16) そこで、私にちょっと考えがあります {*のだ/の/*ッチャ/*ト}。

(野田1997)

2. 2. 形態

否定形式・過去形式を前接、後接する場合に「チャ」「ト」がどのような形態をとるのかを整理する。「行く」という動詞を例に以下の〔表1〕〔表2〕に示す。

〔表1〕「チャ」の形態

		後接形式		
		φ	-ナイ	-タ
前接形式	φ	イク-ツチャ	イク-ツチャナイ	イク-ツチャッタ
	-ナイ	イカン-チャ	イカン-チャナイ	イカン-チャッタ
	-タ	イッタ-ツチャ	イッタ-ツチャナイ	イッタ-ツチャッタ

〔表2〕「ト」の形態

		後接形式		
		φ	-ナイ	-タ
前接形式	φ	イク-ト	/	
	-ナイ	イカン-ト		
	-タ	イッタ-ト		

「チャ」は否定形・過去形の前接、後接とも可能である。これに対し、「ト」は過去形・否定形という形をもたない。また、「チャ」は必ず促音を伴い、「ツチャ」の形で生起する。「ト」は促音を伴わないのに関わらず、「チャ」が伴うことについては、発音のしやすさなどが考えられるが、現段階でははっきりした理由はわからない。また、否定を表す撥音に後接する場合は促音を伴わず、「ンチャ」の形で生起する。

2. 3. 文タイプなど

共通語の「のだ」は平叙文と（YES-NO・疑問詞）疑問文で使用される。ただしこの場合、YES-NO疑問文では「のだ」は用いられず、「のだ」の変異体である「の」のみが用いられる。これに対し、「チャ」が使われるのは平叙文のみであり、（YES-NO・疑問詞）疑問文では使用されない。「ト」は平叙文、（YES-NO・疑問詞）疑問文で用いられる。

また、「のだ」と同様、命令文・依頼文・禁止文・勧誘文には「チャ」「ト」は使われない。

(17) あれが大阪大学 {なんだ／なの／ヤツチャ／ヤト}。【平叙文】 (作例)

(18) 明日行く {*んだ／の／*ツチャ／ト} ↑ 【YES-NO疑問文】 (作例)

- (19) どこへ行く {んだ／の／*ツチャ／ト} ↑ 【疑問詞疑問文】 (作例)
 (20) *早く行け {んだ／の／ツチャ／ト}。【命令】 (作例)
 (21) *先に行って {んだ／の／ツチャ／ト}。【依頼】 (作例)
 (22) *あそこは行くな {んだ／の／ツチャ／ト}。【禁止】 (作例)
 (23) *一緒に行こう {んだ／の／ツチャ／ト}。【勧誘】 (作例)

3. 「のだ」に関する研究

上述したように宮崎方言において、「チャ」「ト」は「のだ」と置き換えがほぼ可能である。このため、「チャ」「ト」の意味・機能について考察する際には「のだ」に関する研究が参考になると考えられる。ここでは本論文で参考にする「のだ」の研究について触れる。

現代日本語における「のだ」の研究の主なものに、田野村（1990）と小金丸（1990）、野田（1997）がある。まず田野村（1990）の立場を簡単にまとめる。

I) 「のだ」の基本的な意味・機能は、あることがらをうけて、その背後にある事情を表すことである。 田野村（1990：5）

II) 具体的なことがらをうけない場合にも、「のだ」はある実情を表す機能をもつ。

田野村（1990：6）

次に野田（1990；1997）の立場を簡単にまとめる。

III) 「のだ」の意味・機能をスコープの「の（だ）」とムードの「のだ」とに大きく二分する。 野田（1997：20）

IV) ムードの「のだ」は、「対事的」か「対人的」という点と、「関係づけ」か「非関係づけ」という点から、更に四つに分類される。 野田（1997：67、71）

ここで本論文では、「スコープ」「対事的ムード」「対人的ムード」の観点で「チャ」「ト」の機能を分析する際に重要になると思われるため、野田（1997）の枠組みを参考にして「チャ」「ト」の分析を行う。以下、野田（1997）で示された枠組みのうち、3. 1. でスコープの「のだ」、3. 2. でムードの「のだ」について簡単にまとめる。

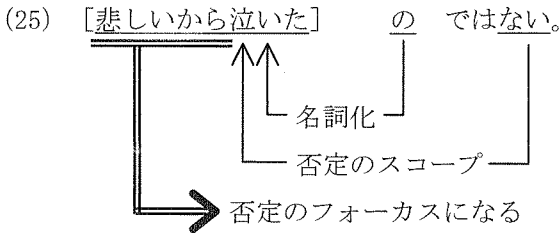
3. 1. スコープの「のだ」

(24) 悲しいから泣かなかった。

(25) 悲しいから泣いたのではない。

「話し手が泣いた」ことを否定する(24)と比較すると、「のだ」を用いた(25)では「話し手が泣いた」ということは成立しており、その理由が「悲しいから」ではない

ということが示されている。つまり、「のだ」を用いるか否かによって、文のどの部分が特に否定されるのかが違って来る。(25)は以下のような構造をとる (pp. 32-33)。



(野田 1997 : 33より抜粋)

野田 (1997) は、このような、前接する部分を名詞化するために必須である「のだ」をスコープの「のだ」と呼んでいる。スコープの「のだ」は否定の文だけでなく、疑問文や肯定の平叙文にも用いられる。([]内がスコープ。網かけ部分がフォーカス。)

(26) 【私に聞いている】 んですか？

(27) 【智子に言った】 んじゃない。 【幸子に言った】 んだ。

(28) 【お前に聞いている】 んだ。

また、スコープの「のだ」には「枠組み固定文」と呼ばれる、以下のようなものもある。

(29) 【その人間がポリシーを決める】 のではない。

【ポリシーがその人間を決定する】 のだ。

これは、事態に関与する二つの要素の間に、ある関係が成立することは前提としたうえで、その関係において、それぞれの要素が果たす役割を問題にするものである (p. 54)。

3. 2. ムードの「のだ」

ムードの「のだ」は [表 3] で示すように二つの軸によって四つに分けられている。

[表 3] ムードの「のだ」の分類

	対事的ムードの「のだ」	対人的ムードの「のだ」
関係づけ	Pの事情・意味として Qを把握する (30)	Pの事情・意味として Qを提示する (32)
非関係づけ	Qを(既定の事態として) 把握する (31)	Qを(既定の事態として) 提示する (33)

〈対事的ムードの「のだ」〉

話し手が発話時において、それまで認識していなかった事態Qを把握する場合に用いられ、必ずしも聞き手を必要としない。

〈対人的ムードの「のだ」〉

話し手がすでに認識していた事態Qを聞き手に提示する場合に用いられ、必ず聞き手を必要とする。

〈関係づけ〉

「のだ」がQをP（状況や文脈。言語化されるとは限らない）と関係づけて把握、提示するために用いられているもの。

〈非関係づけ〉

「のだ」がQをPと関係づけるために用いられているとは考えにくく、Qを既定の事態として把握、提示するために用いられるもの。

このうち、関係づけの「のだ」と非関係づけの「のだ」は連続的で区別が難しい場合もあると認めた上で、状況や先行文脈に関係づけるか否かで一応分類される。

それぞれの例文を以下に挙げる。

(30) 山田さん来ないなあ。きっと用事があるんだ。【対事的 関係づけ】

(31) そうか、このスイッチを押すんだ。【対事的 非関係づけ】

(32) 僕、明日は来ないよ。用事があるんだ。【対人的 関係づけ】

(33) このスイッチを押すんだ！【対人的 非関係づけ】

（野田 1997：67より抜粋；【 】内は筆者）

なお、野田（1993）で述べられているように、「のだ」の変異体である「の」は対事的用法としては用いることができない。「の」が用いられるのは対人的用法に限られる。

(34) 山田さん来ないなあ。きっと用事がある {んだ/*の}。

【対事的 関係づけ】

(35) そうか、このスイッチを押す {んだ/*の}。【対事的 非関係づけ】

(36) 私、明日は来ないよ。用事がある {んだ/の}。【対人的 関係づけ】

(37) このスイッチを押す {んだ/の}！【対人的 非関係づけ】

以下、4節で「のだ」の機能と対比することで「チャ」「ト」の異同について見ていく。

4. 「のだ」と「チャ」「ト」の異同

本節では「のだ」と「チャ」「ト」の異同について考察する。以下、野田（1997）の枠

組みを参考に、4. 1. でスコープの用法に関して、4. 2. でムードの用法に関して見ていく。

4. 1. スコープの用法

ここではスコープの「のだ」との異同について考察する。

まず、否定文について考える。「チャ」は否定文のスコープの「のだ」とは置き換えが可能である。それに対し、「ト」は置き換えることができない。

(38) 悲しいから泣いてる {んじゃない／ツチャナイ／*トジャナイ}。

(野田1997)

(39) 智子に言った {んじゃない／ツチャナイ／*トジャナイ}。

(野田1997)

次に肯定文についてである。「チャ」は肯定文のスコープの「のだ」と置き換えられないのに対し、「ト」は置き換えることができる。ただし肯定文の場合、否定文などを先行文脈として設定していなければフォーカスの位置がはっきりしない。

(40) (悲しいから泣いてるツチャナイ。)

[嬉しくて泣いてる] {んだ/*ツチャ/ト}。

(野田1997)

(41) (智子に言ったツチャナイ)

[幸子に言った] {んだ/*ツチャ/ト}。

(野田1997)

以上のように文脈の支えがあれば、「ト」はスコープの機能をもつことができる。しかし、これは文脈によってフォーカスの位置が明示されただけであり、「ト」がスコープを広げる機能を果たしているとは言いきれない。これは先行文脈がない場合にはスコープの「のだ」の解釈だけでなく、ムードの「のだ」としての解釈も可能である。

(42) 嬉しくて泣いてる {*ツチャ/ト}。

(野田1997)

(43) 幸子に言った {*ツチャ/ト}。

(野田1997)

しかし、スコープの「のだ」の解釈しか許されない「枠組み固定文」や「～のは～のだ」の文においても「ト」に自然に置き換えることができる。

(44) [価値があるものだから交換される] {のではない／ツチャナイ}。

[交換されるから価値がある] {のだ/*ツチャ/ト}。

(野田1997)

(45) 皮膚が荒れているのはビタミンが不足している {のだ/*ツチャ/ト}。

(吉田1988)

ここから「チャ」は否定文のみで、一方、「ト」は肯定文のみでスコープの機能をもっていると考えられる。ただし、「チャ」に文末詞が後接したものは、多くの場合、肯定文中

であってもスコープの機能をもつようになる。これについては5節で詳しく述べる。

4. 2. ムードの用法

ここではムードの用法について考察する。野田(1997)ではムードの「のだ」を四つに分類していたが、ここでは二形式の差異が顕著だと思われる対事的「のだ」と対人的「のだ」の二つに大きく分け、4. 2. 1. で対事的用法、4. 2. 2. で対人的用法について考察する。なお、関係づけと非関係づけについてはそれぞれの節で述べることとする。

4. 2. 1. 対事的用法

対事的「のだ」とは、話し手が発話時において、それまで認識していなかった事態Qを把握する場合に用いられ、必ずしも聞き手を必要としない(p. 67)ものである。この事態QをP(状況や文脈。言語化されるとは限らない)に関係づけるか否かで、関係づけ「のだ」と非関係づけ「のだ」に分類される。

「チャ」は対事的「のだ」と置き換えることができるが、「ト」は置き換えることができない。以下に(46)~(50)は関係づけの用法の例、(51)~(54)は非関係づけの用法の例を挙げる。なお、非関係づけの用法のうち、(51)(52)は話し手がそれまで全く認識していなかった事態を把握した場合、(53)(54)は話し手が事態を再認識した場合である。

(46) (高校から大学へエスカレーター式の学校だと聞いて)

へえ……。じゃ、三年も遊んでられる {んだ/*の/ツチャ/*ト}。

(野田1997)

(47) (友人が運転しているのを見て)

あ、あいつ、運転する {んだ/*の/ツチャ/*ト}。

(野田1997)

(48) スキーの指導員ってことは、スキー上手 {なんだ/*なの/ヤツチャ/*ヤ

ト}。

(野田1997)

(49) (星座のしし座の図を見せられて)

へー、しし座ってそんなの {なんだ/*なの/ヤツチャ/*ヤト}。

(談話1)

(50) (いたずら電話が明け方にかかってくるという相談に対して)

時間帯とか関係なし {なんだ/*なの/ヤツチャ/*ヤト}。

(談話2)

(51) そうか、このスイッチを押す {んだ/*の/ツチャ/*ト}。

(野田1997)

(52) (「伊達が勝った」という新聞記事を読みながら)

へえ、伊達が勝った {んだ/*の/ツチャ/*ト}。

(野田1997)

(53) そうそう、思い出した。ここにポストがある {んだ／*の／ツチャ／*ト}。
(野田1997)

(54) そういえば今度の土曜日、練習試合がある {んだ／*の／ツチャ／*ト}。
(談話1)

対事的「のだ」は「のだろう」という推量の形をとるが、これに対し、「チャ」も「チャロウ」という推量形がある。

(55) この部屋にきっと誰かが入った {んだろう／ツチャロウ}。 (作例)

(56) あの子もあの子なりに考えてる {んだろう／ツチャロウ}。 (談話1)

また、「のだ」は「のだった」という形をとる。これについて野田(1997)は「のだった」は「のだ」のタ形であるが、「のだ」で表される話し手の心的態度が過去に存在したことを示したとは限らず、独自の機能をもっている(p. 89)としている。野田(1997)によると、この「のだった」は「想起」「後悔」の対事的ムードの用法をもつ⁶⁾。そして「チャ」のタ形である「チャッタ」は「のだった」と置き換えることができる。

(57) 今日で、もう終わりにする {んだった／ツチャッタ}。【想起】
(野田1997)

(58) こんなことならバントする {んだった／ツチャッタ}。【後悔】
(野田1997)

つまり対事的「のだ」の場合、「チャ」は関係づけ、非関係づけの区別に関わらず置き換えることができ、「チャロウ」「チャッタ」も、それぞれ「のだろう」「のだった」と同様の意味・機能をもっている。これに対し、「ト」は対事的用法をもっていない。

4. 2. 2. 対人的用法

対人的「のだ」とは話し手がすでに認識していた事態Qを聞き手に提示する場合に用いられ、必ず聞き手を必要とする(p. 67)ものである。ここでも、事態QをP(状況や文脈。言語化されとは限らない)を関係づけるか否かで関係づけ「のだ」と非関係づけ「のだ」に分類される。

共通語の「のだ」の場合、例えば「よ」などの終助詞を伴わずに「のだ」単独であっても対人的機能を果たすことができるが、「チャ」は単独で用いられる際には対人的機能は担うことができない。一方、「のだ」の変異体とされる「の」が対人的用法をもっているのと同様、「ト」は対人的「のだ」と置き換えることができる。以下に(59)～(62)は関係づけの用法の例、(63)～(70)は非関係づけの用法の例を挙げる。なお、非関係づけの用法のうち、野田(1997)は(63)～(67)等に現れる「のだ」は、ことさら伝える場合、教示、

命令の場合に用いられるものであり、(68)～(70)等の「のだ」は、そのような強調のニュアンスが薄れて、軽く用いられたものだとしている。

- (59) 私、明日は来ないよ。用事がある {んだ／の／*ツチャ／ト}。(野田1997)
- (60) 咲^{さき}いないよ。旅行に行った {んだ／の／*ツチャ／ト}。(野田1997)
- (61) a : いつ帰ってくるの?
b : 3時に出るから、6時くらいには帰ってくると思う {んだ／の／*ツチャ／ト}。(談話1)
- (62) (アメリカでのホームステイの体験談)
食事の時間にみんなはあんまり食べない。何かめちゃくちゃ間食する {んだ／の／*ツチャ／ト}。(談話1)
- (63) (母親に向かって) 今夜は絶対徹夜する {んだ／の／*ツチャ／ト}。(松丸1999)
- (64) a : 会おうよ。
b : えっ。
a : 会う {んだよ／の／*ツチャ／ト}。今日、これから。(野田1997)
- (65) ジロー君、車に気をつける {んだよ／の／*ツチャ／ト}。(野田1997)
- (66) 立て! 立つ {んだ／の／*ツチャ／ト}! ジョー!(松丸1999)
- (67) 大人は働かなきゃ {いけないんだよ／いけないのよ／*イカンチャ／イカント}。(野田1997)
- (68) あのね、さっき道を聞かれた {んだ／の／*ツチャ／ト}。それで、教えてあげたら、すごく丁寧にお礼言われた {んだ／の／*ツチャ／ト}。嬉しかったなあ。(野田1997)
- (69) (アメリカでのホームステイの体験談)
朝食にはね、マフィンを焼く {んだ／の／*ツチャ／ト}。そしてそれが何日間かある {んだ／の／*ツチャ／ト}。それを好きな時間に食べていい。(談話1)
- (70) 今、かばんと靴が欲しい {んだ／の／*ツチャ／ト}。だから今度見に行こうと思ってるんだけど…(談話2)

つまり、対人的用法の場合、「ト」は関係づけ、非関係づけの区別に関わらず置き換えることができ、その意味・機能をもつ。これに対し、「チャ」は対人的用法をもっていない。

4. 3. 本節のまとめ

以上、本節では「のだ」の機能と対比することで「チャ」「ト」の異同について考察した。まとめると [表4] のようになる。

[表4] 「のだ」と「チャ」「ト」

		チャ	ト
スコープの「のだ」	肯定文	×	○
	否定文	○	×
ムードの「のだ」	対事的「のだ」	○	×
	対人的「のだ」	×	○

○：置き換え可 ×：置き換え不可

ここから「チャ」と「ト」の意味・機能は相補的な関係にあることがわかる。つまり、「のだ」の機能のうち、否定文のスコープ機能と対事的ムードの機能を「チャ」が、肯定文のスコープ機能と対人的ムードの機能を「ト」がもっているのである。また、ムードの用法について詳しく見てみると、共通語の場合、3. 2. で述べたように、「のだ」は対事的ムードの機能、対人的ムードの機能の両方を持ち、「のだ」の変異体である「の」は対人的ムードの機能のみをもつ。これに対し、宮崎方言の場合、「の」に相当する「ト」が対人的ムードの機能のみをもつことは同じであるが、「チャ」に関しては、「のだ」のように両方の機能をもつわけではなく、対事的ムードの機能のみをもつ。ただし、「チャ」は文末詞が後接すると肯定文のスコープの「のだ」や対人的ムードの「のだ」との置き換えが可能となる場合がある。これについては5節で詳しく述べる。

5. チャ+文末詞

4節までは文末詞の後接していない「チャ」について考察してきた。そこでは「チャ」は「のだ」とは異なり、肯定文のスコープ機能、対人的ムードの機能をもっていないことが明らかになった。

しかし宮崎方言には発話・伝達のモダリティを表す文末詞「ワ」「ジ」「ガ」があり、これらは「チャ」に後接できる。そして文末詞の意味・機能が働くことによって、「チャ」単独では担うことができなかつた対人的機能を担うことができるようになる。ただし、「チャ」は常に対事的「のだ」と置き換えが可能であったが、対人的「のだ」の場合は「チャ+文末詞」と常に置き換えが可能なのではない。ここではまず、5. 1. で野田

(1997) で提示された関係づけと非関係づけ、それぞれの対人的「のだ」と「チャ」の異同を考察した後、5. 2. で「チャ」独自の視点から対人的な機能について考察する。

5. 1. 関係づけと非関係づけ

関係づけの「のだ」の場合、「チャ」は文末詞「ワ」を後接することで置き換えることができる。

- (71) 私、明日は来ないよ。用事がある {んだ／ツチャワ／*ツチャ (ジ／ガ) }。
(野田1997)
- (72) 咲^{さき}かないよ。
旅行に行った {んだ／ツチャワ／*ツチャ (ジ／ガ) }。
(野田1997)
- (73) a : いつ帰ってくるの?
b : 3時に出るから、6時くらいには帰ってくると思う {んだ／ツチャワ／*ツチャ (ジ／ガ) }。
(談話1)
- (74) (アメリカでのホームステイの体験談)
食事の時間にみんなはあんまり食べない。何かめちゃくちゃ間食する {んだ／ツチャワ／*ツチャ (ジ／ガ) }。
(談話1)

これに対し、非関係づけの「のだ」の場合、文末詞を後接した「チャ」と置き換えることができる場合とそうでない場合とがある。

- (75) (母親に向かって) 今日は絶対徹夜する {んだ／*ツチャ (ワ／ジ／ガ) }。
(松丸1999)
- (76) a : 会おうよ。
b : えっ。
a : 会う {んだよ／*ツチャ (ワ／ジ／ガ) }。今日、これから。
(野田1997)
- (77) ジロー君、車に気をつける {んだよ／*ツチャ (ワ／ジ／ガ) }。
(野田1997)
- (78) 立て！立つ {んだ／*ツチャ (ワ／ジ／ガ) }！ジョー！
(松丸1999)
- (79) 大人は働かなきゃ {いけないんだよ／イカンチャガ／？イカンチャ (ワ／ジ) }。
(野田1997)
- (80) あのね、さっき道を聞かれた {んだ／ツチャワ／*ツチャ (ジ／ガ) }。それで、教えてあげたら、すごく丁寧にお礼言われた {んだ／ツチャ (ワ／ガ) } /

*チャジ}。嬉しかったなあ。

(野田1997)

(81) (アメリカでのホームステイの体験談)

朝食にはね、マフィンを焼く {んだ/ッチャワ/*ッチャ (ジ/ガ)}。そしてそれが何日間もある {んだ/ッチャワ/*ッチャ (ジ/ガ)}。それを好きな時間に食べていい。(談話1)

(82) 今、かばんと靴が欲しい {んだ/ッチャワ/*ッチャ (ジ/ガ)}。だから今度見に行こうと思ってるんだけど…。(談話2)

対人的「のだ」のうち、「関係づけ」の場合は置き換えることができたが、「非関係づけ」の場合は置き換え可能なものとそうでないものがある。また、置き換え可能な「のだ」も「チャワ」「チャジ」「チャガ」の全てと置き換えが可能なわけではなく、とりうる語形が限られていたり、文脈によって異なった形をとったりする。これは「チャ+文末詞」の場合、対人的機能を担っているのは「チャ」ではなく文末詞であるため、その文で用いられた対人的「のだ」がどのような意味をもっていたかによって、「チャ+文末詞」のとりうる語形が異なるのである。つまり、対人的「のだ」と置き換えることができるか否か、置き換え可能な場合はどの語形になるか、というのは、その文の対人的「のだ」がもつ意味とそれぞれの文末詞がもつ意味によるのである。

以上を踏まえ、5. 2. では文末詞の後接した「チャ」の意味・機能について詳しく分析する。

5. 2. 対人的機能の下位分類

ここで「ワ」「ジ」「ガ」について、筆者の内省によりこれらの文末詞のもつ意味を以下に簡単に記す。ただし現段階では、具体的な意味・機能についてはまだ明らかでない。

〈ワ〉「ワ」は現段階では共通語的（もしくは西日本全般的）に用いられているものとの区別が難しい。「チャ」の後に用いられる「ワ」と同じ意味・機能をもつようなものとしては、以下の例のようなものであり、前後の文脈と関係があることを聞き手に軽く言い聞かせるために用いる。

(例) あんまり、一つのことばかりしていると、世界が狭くなりそうヤワ。だから、この仕事だけをするのは嫌なんだけど…。(談話2)

〈ジ〉 話し手のもっている知識や既定の事実を提示するもの。

(例) 私の彼、すごく心配性ヤジ。(談話2)

〈ガ〉話し手にとって既定の事実を主張、言い聞かせるもの。聞き手の意見と違う時、聞き手に反発する時、自慢する時などに用いる。

(例) (親に毎日長電話していることを怒られて)

違うガ。一日おきヤガ。

(作例)

そして、単独では対事的機能しか担えない「チャ」はこれらの文末詞を後接し、それらの意味・機能が働くことで聞き手を必要とする対人的「のだ」の用法の一部を担うことができる。以下、これらの文末詞が後接した場合についてそれぞれ記述する。

(i) 「チャワ」

(83) 咲かないよ。旅行に行った {んだ／ッチャワ}。 (野田1997)

(84) あのね、さっき道を聞かれた {んだ／ッチャワ}。それで、教えてあげたら、すごく丁寧にお礼言われた {んだ／ッチャワ}。嬉しかったなあ。

(野田1997)

野田 (1997) の分類では、(83)は「関係づけ」、(84)は「非関係づけ」に分類されるものであるが、「チャワ」は、(83)のように先行文脈や状況だけではなく、(84)のように後ろの文脈とつながりがある場合にも用いられ、聞き手にある事態を軽く言い聞かせるものである。(84)のような場合には「チャワ」を用いることにより、聞き手に発話内容に対する認識を促すという意味合いが強まり、それをもとに後続発話へとつなげていく。以下、この「チャワ」の用法を「前後文脈とのつながり」とする。また、「チャワ」は「チャワー」と「ワ」が長音化することもある。

(ii) 「チャジ」

(85) あの子、いつも私のCDプレーヤーで聞ってる {んだよ／ッチャジ}。

(談話1)

(86) 太郎、実は結婚してる {んだよ／ッチャジ}。

(作例)

(85)(86)ともに「非関係づけ」に分類されるものであろう。話し手のもっている知識をもっぱら提示する時に用いられる。以下、この「チャジ」の用法を「知識の提示」とする。

(iii) 「チャガ」

(87) 大人は働かなきゃ {いけないだよ／イカンチャガ}。 (野田1997)

(88) (aが無神経なことを言った後で)

a : あ、ごめん。

b : いい {んだ／ッチャガ}、いい {んだ／ッチャガ}。 (野田1997)

(89) 私、キャベツ一玉ね、3日で使い切る {んだ／ッチャガ}。 (談話2)

「知識の提示」と同様、(87)～(89)は「非関係づけ」に分類される。話し手自身の判断や主張を言い聞かせるもの時に用いられるものである。以下、この「チャガ」の用法を「言い聞かせ」とする。

(iv) その他

以下の対人的「のだ」とは文末詞が後接しても置き換えることができない。

(90) (母親に向かって) 今日絶対徹夜する {んだ／*ッチャ (ワ／ジ／ガ)}。

(松丸1999)

(91) 僕は絶対勝つ {んだ／*ッチャ (ワ／ジ／ガ)}。 (野田1997)

(92) a : 会おうよ。

b : えっ。

a : 会う {んだよ／*ッチャ (ワ／ジ／ガ)}。

今日、これから。 (野田1997)

(93) ジロー君、車に気をつける {んだよ／*ッチャ (ワ／ジ／ガ)}。

(野田1997)

(94) 立て！立つ {んだ／*ッチャ (ワ／ジ／ガ)}！ジョー！ (松丸1999)

このうち、(90)(91)は話し手の決意を宣言しているものである。また、(92)～(94)は聞き手に命令したり、ある行動を強制するものである。「チャ」はこのような用法の「のだ」とは置き換えることができない。

以上のように、対人的「のだ」の用法のうち、ある既定の事態を軽く言い聞かせつつ、前後文脈とのつながりを示す時には「チャワ」を、話し手のもっている知識を提示する時には「チャジ」、主張して言い聞かせる時には「チャガ」を使用する。そしてそれ以外の、宣言や、聞き手に命令したり行動を強制するような言い方はできない。対人的「のだ」と「チャ+文末詞」の具体的な関係をまとめると[表5]のようになる。

[表5] 対人的「のだ」と「チャ+文末詞」

	具体的意味	置き換え関係
対人的関係づけ 「のだ」	前後文脈とのつながり	「チャワ」と置き換え可
対人的 非関係づけ 「のだ」	知識の提示	「チャジ」と置き換え可
	言い聞かせ	「チャガ」と置き換え可
	宣言	置き換え不可
	命令・行動の強制	置き換え不可

野田（1997）では、先行文脈や状況に関係づけているか否かで「関係づけ」と「非関係づけ」を区別していたが、「チャワ」は先行文脈や状況だけではなく、非関係づけ「のだ」に位置するものであっても後続する発話内容に関連があれば使用できる⁷⁾。つまり[表5]のように「前後文脈とのつながり」として用いられる「チャワ」が対人的関係づけ「のだ」と対人的非関係づけ「のだ」の一部にまたがっていることになる。つまり、「チャ+文末詞」の場合、「関係づけ」「非関係づけ」の区分ではなく、「前後文脈とのつながり」「知識の提示」「言い聞かせ」「宣言」「命令・行動の強制」のように細分化されることになる。

また、「チャ」の肯定文中でのスコープ機能についてであるが、4. 1. で見たように「チャ」は単独で用いられることはない。これは「チャ」単独で用いると話し手はその場で把握したという対事的意味をもつからである。ただし、「チャ」が文末詞を後接した場合、その文末詞のもつ意味・機能の範囲内ならばスコープの肯定文中に生起することができる。

(95) (智子に言ったんじゃない。) 幸子に言った {んだ/ッチャジ/ト}。

(野田1997)

(96) [価値があるから交換される] {のではない/ッチャナイ}。

[交換されるから価値がある] {のだ/ッチャジ/ト}。 (野田1997)

(97) 皮膚が荒れているのはビタミンが不足している {のだ/ッチャガ/ト}。

(吉田1988)

5. 3. 本節のまとめ

以上、本節では「チャ」に文末詞が後接した場合の用法について考察してきた。ここから、「チャ+文末詞」は「チャ」単独では担うことができなかつた対人的機能の一部を担うことができるようになることがわかった。

なお、対人的機能のうち、「前後文脈のつながり」「知識の提示」「言い聞かせ」では「チャ+文末詞」「ト」の二種類が使用できるわけであるが、この機能において両者に違いがあるのかどうかは現段階では明らかではない。両者は互いに置き換えが可能であり、また以下の例のように、同じ内容の文を連続して発話する際に、「チャ+文末詞」と「ト」が言い換えられて用いられることもある。

- (98) もしあの人からそんなこと言われたら、私たぶん、とことんはぐらかすと思うトヨ。めちゃくちゃはぐらかすと思うッチャワ。(談話2)

6. 「チャ」「ト」の文中での位置

ここで、「チャ」「ト」の文の階層構造における位置づけについて考える。

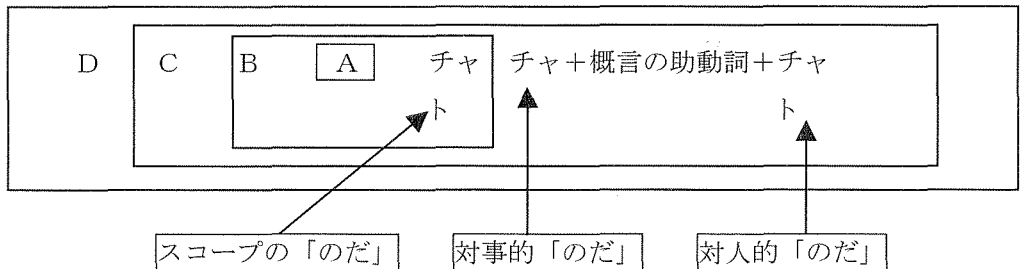
南(1974)は文の階層構造をA~Dの四つに分けて示し、それを田窪(1987)は以下のように整理している。(田窪(1987)は主格の位置づけについて(99)を整理しているが、本論文では関係しないので省略する。)

- (99) A = 様態・頻度の副詞 + 補語 + 述語
 B = 制限的修飾句 + 主格 + A + (否定) + 時制
 C = 非制限的修飾句 + 主題 + B + モーダル
 D = 呼掛け + C + 終助詞 (田窪 1987 : 38)

野田(1997)では、スコープの「のだ」について、連体修飾節との共通性、A類の従属節には現れず、B類の従属節の一部に現れる点、C類の要素が「のだ」のスコープに入ることができない点、連体修飾節の中に「のではない」が現れる点から、スコープの「のだ」をBの段階に位置づけている。また、ムードの「のだ」に関しては、概言の助動詞との関係から対事的「のだ」をCの段階のうち、Bの段階に近いところ、対人的「のだ」をCとDの段階にまたがるものとして位置づけている。しかし、このDの段階に位置づけられているものは「ですの」「ますの」のように用いられた「の」であり、これは「のだ」と置き換えることはできない。よって、厳密に言うと、Dの段階に位置づけられるものは「のだ」ではなく、その変異体である「の」であろう。

今までの考察から、宮崎方言の「チャ」「ト」はある程度「のだ」と同じであると考えてよいだろう。まず、スコープの機能を担う「チャ」「ト」はBの段階に位置する。次にムードの用法のうち、対事的用法は「チャ」のみしか用いることができない。よって対事的「のだ」が位置づけられているCの段階のうち、Bの段階に近いところには「チャ」のみが位置し、「ト」は位置しない。また、対人的用法の「チャ」「ト」についてだが、「チャ」は単独では対人的用法は担えないものの、「チャ+文末詞」の形をとることで、対人的機能を果たす。よって「チャ」「ト」ともにCの段階に位置づけられる。そして「チャ」「ト」には、「のだ」の変異体「の」のような終助詞化した用法はない。よって対人的用法の「チャ」「ト」はDの段階には位置づけられない。まとめると以下の図のようになる。ただし、対人的用法の「チャ」は文末詞「ワ」「ジ」「ガ」の後接が必須である。

(100)



7. まとめと今後の課題

以上、本論文では宮崎方言における「チャ」「ト」の意味・機能を考察した。本論文で考察したことを以下にまとめる。

(a) 宮崎方言の「チャ」は「のだ」に、「ト」は文末に生起する狭義準体助詞の「の」に相当する。ここから「チャ」は「ト」に「だ」に相当する断定辞の「ジャ」が後接した「トジャ」が変化したものではないかと考えられる。

(b) 「チャ」は平叙文専用の形式である。これに対し、「ト」は平叙文、(YES-NO・疑問詞)疑問文で使用される。そして「のだ」の機能のうち、否定文のスコープ機能と対事的ムードの機能を「チャ」が、肯定文のスコープ機能と対人的ムードの機能を「ト」がもっている。すなわち、「チャ」と「ト」は相補的な関係にある。

(c) 「チャ+文末詞」は「チャ」単独では担うことができなかった対人的機能の一部を担うことができるようになる。

(d) 「チャ」「ト」は文の階層構造において、スコープの「チャ」「ト」はBの段階に位

置づけられる。また、ムードの用法のうち、対事的ムードの「チャ」はCの段階のうち、Bの段階に近いところに位置づけられ、対人的ムードの「チャ」「ト」はCの段階に位置づけられる。ただし、対人的ムードの「チャ」の場合、文末詞の後接が必須である。

なお、本論文では「チャ」に後接する文末詞について簡単な説明を施しただけであった。このため、対人的機能をもつ「チャ+文末詞」についての分析が不十分だったと思われる。また「チャ+文末詞」と「ト」の違いは現段階では明らかでない。以上のことについては今後の課題として追究していきたい。

【注】

- 1) 「の」「んだ」を含む。
- 2) 談話1：中高生女子と30代女性（宮崎市、佐土原町、綾町生え抜き）
談話2：22歳女性（宮崎市生え抜き）と筆者
- 3) 例文については、参考文献中からの引用であるものを（野田1997）のように、筆者自身の作例であるものを（作例）、談話からの引用であるものを（談話1）（談話2）のように示した。なお、談話からの例のうち、(73)のように { } 内にいくつかの形があるものについては、実際の談話から出てきた形に下線を施した。
- 4) 共通語の場合、「の」を用いるのはたいてい女性であるが、宮崎方言の「ト」は性別に関係なく用いられる。
- 5) 「ワ」「ジ」「ガ」については宮崎方言であるが、具体的な意味・機能については未分析である。このうち「ジ」については陣内（1998）等で新方言であるとの報告がなされている。実際、2001年5月に筆者が実施した高校生を対象としたアンケートでも新方言であることを裏付ける結果が出ている。また「ヨ」については共通語の終助詞「よ」と同じであると見てよいだろう。
- 6) この他、「のだった」は対人的ムードの【物語的過去】の用法をもつが、これは書きことばのみに用いられるため、ここでは考察の対象外と考えてよいだろう。
（例）敏夫は目をつぶってひといきにそう言った。正子は蒼ざめて黙っていた。
そしてゆっくりと口を開いたのだった。
- 7) 「後続する発話内容に関連がある」のに「非関係づけ」となっていることは矛盾しているように思われる。これに関して、野田（1997）の定義では状況や先行文脈と関係があるものを「関係づけ」と名づけており、状況や先行文脈がないものは後続する発話内容と関係があっても「非関係づけ」としている。このため、「非関係づけ」のものであっても「後続する発話内容に関連がある」ものが出てくると思われる。

【参考文献】

- 浅尾いずみ（2001）「鳥取市方言における文末詞ガー」『阪大社会言語学研究ノート』大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室
- 井上 優（1995）「方言終助詞の研究－富山県砺波方言の『ヤ／マ』『チャ／ワ』－」『国立国語

研究所報告110 研究報告集16』

- 九州方言研究会（1991）『九州方言の基礎的研究 改訂版』風間書房
- 小金丸春美（1990）『ムードの「のだ」とスコープの「のだ」』『日本語学』9-3明治書院
- 佐治圭三（1991）『日本語の文法の研究』ひつじ書房
- 田窪行則（1987）「統語構造と文脈情報」『日本語学』6-5明治書院
- 田野村忠温（1990）『現代日本語の文法Ⅰ－「のだ」の意味と用法－』和泉書院
- 寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 仁田義雄（1991）『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 野田春美（1997）『の（だ）の機能』くろしお出版
- （1993）「『のだ』と終助詞『の』の境界をめぐって」『日本語学』12-11明治書院
- （1995）「～ノカ？、～ノ？、～カ？、～φ？、一質問文の文末の形一」宮島達夫
仁田義雄（編）『日本語類義表現の文法（上）単文編』くろしお出版
- 服部 匡（1992）「汎性語の終助詞ワについて」『学術研究年報』43 同志社女子大学
- 原田章之進（1979）『宮崎県方言辞典』風間書房
- 松丸真大（1999）「京都市方言における『ノヤ』『ネン』の異同」『阪大社会言語学研究ノート』1
大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室
- 南 不二男（1974）『現代日本語学の構造』大修館書店
- 吉田茂光（1988）「ノダ形式の構造と表現効果」『国語論叢』15 神戸大学文学部国語国文学会

（博士前期課程学生）

（2002年9月4日受付）

（2002年10月17日修正版受付）

（2002年11月24日掲載決定）